

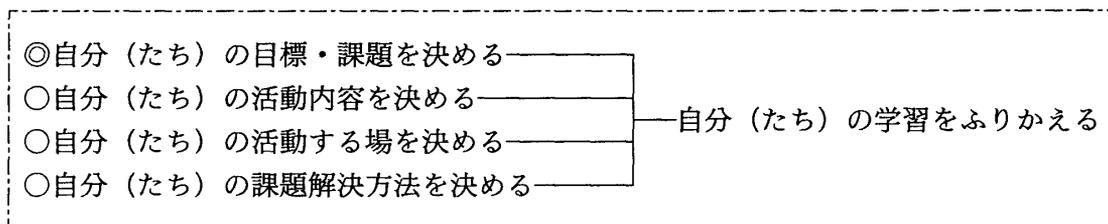
自己決定の場を大切にした体育科学習

—第1学年「ピョン ピョン ジャングル」(跳ぶ運動)の実践を通して—

佐藤直美

1. はじめに

体育科では「自立に向かう子どもたち」という研究テーマにもとづいて自分たちで決める場を次のように考えている。



与えられたことを指示どおりにこなしながらただ技術を獲得していく学習を楽しむのではなく、自分たちで課題を見つけ、それを解決していく中で運動技能を身につける主体的な体育科学習を楽しむことのできる子どもを育てたいと考えている。そこで、今回は特に自分(たち)の目標・課題を決める場・自分(たち)の学習をふりかえる場を重視した。まず、単元の導入部分とまとめの部分に同じ活動の場を設定し、導入の段階では、本単元を行う上でどんなことに取り組んでみたいか、自分たちの目標・課題を決める場を設け、まとめの同じ活動の場では学習の中でどのような技能・態度が育ったのかふりかえる場を設ける。また、毎時間の中に本時のめあてを明らかにする場と本時をふりかえる場を設定した。そのことによって一時間の授業をただ漠然と過ごすのではなく、子どもなりの課題意識と問題意識をもって授業に臨み、見通しをもった学習ができるのではないかと考えた。

2. 実践事例 —ピョン ピョン ジャングル— (第1学年)

(1) 単元について

走・跳の運動のねらいは、自分の体をいろいろな方向に調子よく移動させ、自分の動きを巧みに操作する力を高めることである。本単元では踏み切り足、跳ぶ方向、高さ、距離などを変化させ、いろいろな跳び方に挑戦したり、跳び方を工夫したりして跳ぶ楽しさを味わうことが期待できる。

本学級の児童は、体を動かすことが好きで、体育や外遊びの時間では積極的に運動に取り組んでいる。子どもたちは高いところから跳び下りたり、障害物を調子よく跳び越えたりなどの「跳ぶ」運動は大好きであるが、普段の生活や遊びの中では「跳ぶ」運動をする機会は少ない。

(2) 指導目標

- 1 自分で決めためあてをもとに、踏み切り、跳ぶ方向、高さ、距離などを変化させ、工夫した跳び方を楽しむことができるようにする。
- 2 約束を守り、安全に気をつけて、運動や場づくりができるようにする。

(3) 内容と計画 9 時間

第一次(2)

ジャングルたんけん
・学習のめあてや見
通しをもとう

第二次(6)

高く跳ぼう

遠くまで跳ぼう

リズムよく跳ぼう

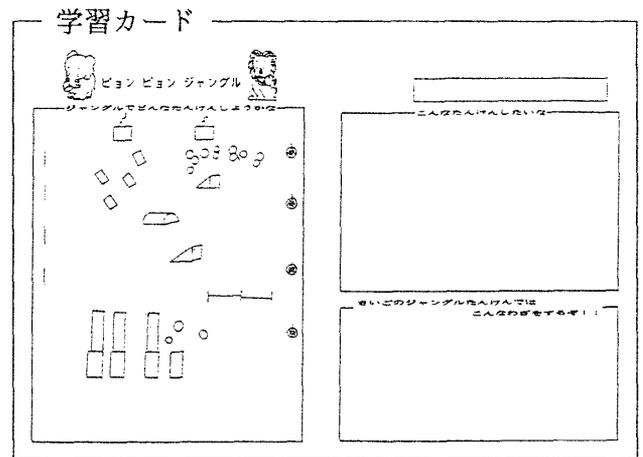
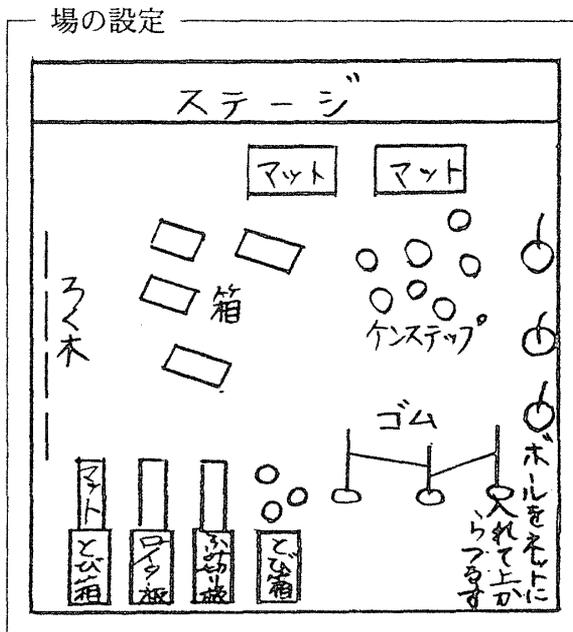
第三次(1)

ジャングルたんけん
・自分の技の発表会を
しよう

(4) 授業の概要

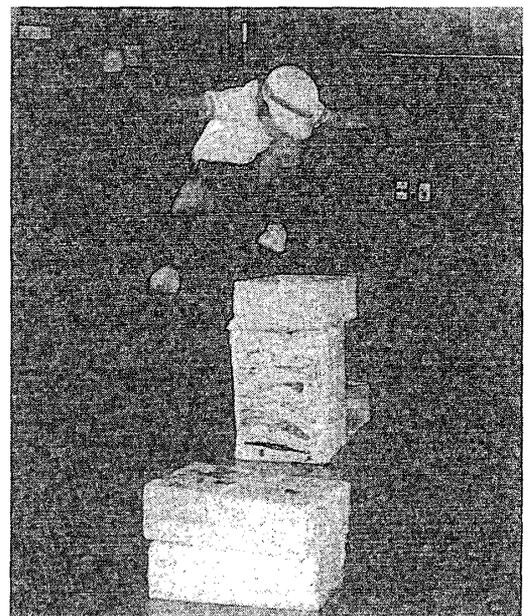
① 第一次 —ジャングルたんけん 学習のめあてや見通しをもとう—

次のような場をジャングルと見立てて設定し、自分たちでジャングルの名を考えたり、これから行う跳ぶ運動についての自分なりのめあてを考えたりした。



[子どもたちがもっためあて]

- ・ロイターばんのところでたかくはやくとびたい。
- ・とおくのはこをとびこしたい。
- ・ステージからくるくるまわってとびおりたい。
- ・とびばこでおしりをつけずにとびたい。
- ・ともだちと手をつないでジャンプしたい。
- ・はこをもっとふやしてとびたい。
- ・うしろとびでゴムとびをしたい。
- ・マットでとおくにとびたい。



子どもたちのめあては、「高く跳ぶ」「遠くまで跳ぶ」「空中姿勢を楽しむ」といったものに分けられた。「空中姿勢を楽しむ」ことは「高く跳ぶ」、「遠くまで跳ぶ」学習の中で楽しむことができることを確認し合い、大まかな本単元での学習内容を子どもたちと一緒に決め、学習の見通しをもった。

そのことを通じて子どもたちはめあてをもって、自分の動きや技づくりを意欲的に行うことができることを期待する。

仮説

仮説	学習カードを用いて自分のめあてを明確に持ち、それを振り返る場を設けることにより、子どもたちはめあてをもって練習の場を選び、自分の動きや技づくりを意欲的に行うことができるであろう。
----	---

本時の目標

自分のめあてにそった場を選び、自分の技を工夫し、楽しみながら遠くまで跳ぶことができる。

評価の観点

関心・意欲・態度	自分のめあてにそった場で、仲よく楽しく運動することができる。
思考・判断	自分のめあてにそった場を選び、遠くまで跳ぶために技を工夫することができる。
技能	遠くまで跳ぶために、力強く踏み切ったり、力いっぱい助走したりすることができる。

学習の展開

学 習 活 動	教 師 の 働 き か け
1 準備運動をする	1 ジャングルを探検する動物の模倣を取り入れながら、力強く走ったり、踏み切ったりなどの主運動につなげていく。 2 グループで協力して安全に準備できるような言葉かけをする。 3 ◎前時までの学習カードをふりかえることにより、本時のめあてを明確に確かめることができるようにする。
2 場づくりをする	
3 本時のめあてを確かめる	
と お く ま で と ぼ う ! !	
4 自分のめあてにそった場で、技を工夫して跳ぶ練習をする	4 ◎めあてにそった練習の仕方について助言をしたり、技の工夫について肯定的評価を行ったりすることにより、意欲的に運動に取り組めるようにする。 自分の跳び方を工夫するために視点を明らかにして友達の跳び方をしっかり見るよう助言したり、跳び方を工夫している子どもの技を紹介したりする。

5 本時をふりかえる

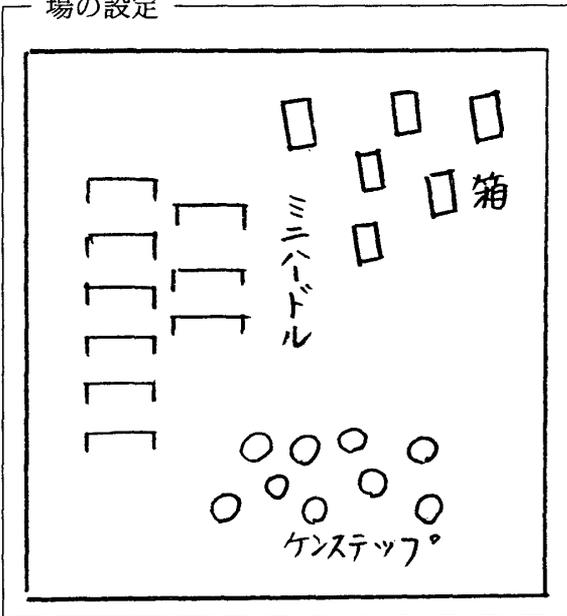
5 ◎学習カードをもとに自分のめあてに照らしあわせてふりかえり，次時の意欲づけをする。

6 後片付けをし，整理運動をする

6 グループで協力して安全に準備できるような言葉かけをする。

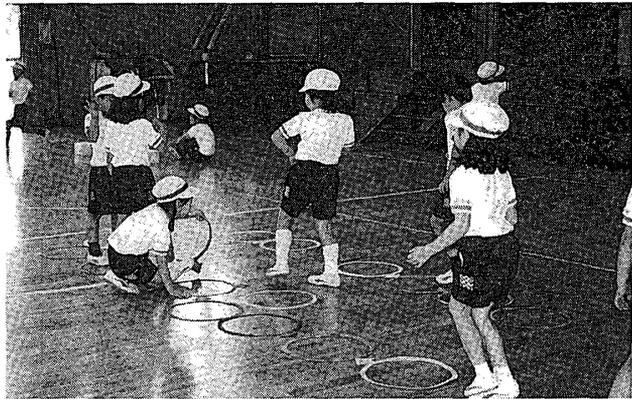
ーリズムよく跳ぼうー

場の設定



子どもたちが見つけた「コツ」

- ・リズムをじぶんでいいながら
- ・けんけんをして
- ・スピードをつけて



① 第三次ージャングルたんけん自分の技の発表会をしようー
場の設定…第一次と同じ設定で行う。

[学習を終えての子どもたちのふりかえり]

- ・ロイターばんでいままでよりとおくまでとべたから，じょうたつしたなとおもった。
- ・きょうでさいごです。とてもたのしいピョン ピョン ジャングルでした。もしできたら，おうちにもとびばことかがあったらいいのになあ。
- ・ピョン ピョン ジャングルで「とおくまでとぼう」「たかくとぼう」「リズムよくとぼう」がぜんぶできたからよかった。もっとこんなたいいくがやりたいです。ジャンプはすごくたのしかったです。
- ・さるののほりじまでたかいところからとびおることができた。ふわふわぬまでたって，ちゃくりくできるようになった。きょうでおわりだけれど，がんばったからおわりでもよかった。
- ・とってもたのしかった。とびばこの4だんがとべるようになったので，うれしかったです。
- ・きづかないうちにいろんなとびかたができるようになったよ。

3. 考察

(1) 単元の導入とまとめの部分に同じ活動の場を設定したことについて

子どもたちは導入段階においてのジャングルの場をとても楽しみながら思いっきり活動することができた。子どもたちの単元を終えてのふりかえりからも分かるように、そこで得た楽しさは本単元が終了するまでずっと持続できた。場の工夫をしたこともその要因として考えられるが、子どもたちが自ら体を動かして学びたい、獲得したものを見つけ出していく喜びを感じたところに大きく関わっている。また、同じ場をまとめの段階にも設定したことにより、導入段階で味わった楽しさや自らもった目標・課題に照らし合わせて自分の学習の成果がどれだけあったのか確かめる場になった。その確かめる場があるのだという意識や見通しがあったことが、子どもたちの意欲、学習する意味づけを喚起、持続する上で大きな役割を果たしていた。

(2) 学習カードを用い、毎時間の中にめあてを明らかにし、ふりかえる場をもつことについて

子どもたちが主体的に学習していく上で、自分なりのめあてをもち、それをふりかえることはとても重要である。今回も、そのことを行っていくことを通して子どもたちはいきいきと活動し、跳ぶ運動の技能や態度を高めることができた。しかし、1年生という発達段階からカードの内容、時間の確保という面で負担のないものを考えなくてはいけない。今回の場合、子どもたちの実態や思いを把握するためにも内容的にはこれ以上削除したくなかったが、書く個人差もあり時間を確保するには難しかった。低学年においては内容を十分吟味した上で、時間のとり方については、体育の時間以外にもとるといった柔軟な考え方が必要かもしれない。また、低学年の段階では、最初にもっためあては変わりやすく、今回も最初にもっためあてとふりかえりの内容がまったく違う子どもの姿も見られた。教師はその点を考慮に入れ、今、子どもがもっているめあての把握とそれに対する適切な支援や指導を行っていくことが大切であるし、めあてを設定する際に教師側の段階的なアドバイスも必要である。

学習カード

ピョン ピョン ジャングル

月 日

きょうはごんたけんししよう！

ごんたけんしたよ

きょうのたんけんをふりかえろう

① じぶんがやりたかったたんけんをおいりたのしくできました。	はい	いいえ
② じぶんのわざをみつけたよ。	はい	いいえ
③ じゅんじゆかたづけをとしたりちからをあわせてみましたよ。	はい	いいえ
④ あんさんに目をつけてたんけんできました。	はい	いいえ

4. おわりに

今回、「ピョン ピョン ジャングル」という単元を学習していく中で体育の時間以外での子どもたちの嬉しつぶやきを何度も耳にした。「やったあ、明日ピョン ピョン ジャングルがある。がんばってこよう。」「1時間目から体育だったらいいのに。」「ずっとピョン ピョン ジャングルやりたいよ。」「今までの体育で一番おもしろい。」…。ほとんどの子どもは体育の時間が大好きである。しかし、このような言葉を子どもたちから聞くのは初めてである。本単元をふりかえり、多くの反省点や改善点が頭をよぎる中で、今までの私が行ってきた体育科学習に足りなかったものは何だろう、と自問自答している日々である。

これからも、自分で決める場を大切にし、自立に向かう子どもを育てる体育科学習について実践を積んでいきたい。